

第5回北区基本構想審議会 部会3「創出」 議事録

日 時：令和4年4月28日（木）午後2時00分～午後3時20分

場 所：北区役所第2委員会室

出席者 高橋儀平部会長 村上公哉副部会長
内海千津子委員 岡本百合子委員 小田切かずのぶ委員
下山豊委員 戸枝大幸委員 新留美哉子委員

1 開 会

2 分野別の20年後の望ましい姿について

- (1) 都市計画
- (2) 道路・交通
- (3) 住宅・公園河川
- (4) 防災・防犯
- (5) 環境共生・環境保全・資源循環

3 職員ワークショップの実施結果について

4 その他

5 閉 会

議事要旨

○事務局

ただいまから第5回部会3「創出」部会を開催いたします。

本日も大変お忙しい中、当部会へご出席いただきまして、ありがとうございます。

新型コロナウイルスの新規感染者数は、高止まりの傾向が続いておりますが、席と席の間隔を空けるなど、しっかりとした感染防止対策をしながら、対面で会議を進めさせていただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

次に、本日の欠席委員でございますが2名の委員から欠席のご連絡をいただいております。

それでは、部会長、進行のほど、よろしくお願いいたします。

○部会長

早速、進めさせていただきたいと思っております。

部会については、しばらく間が空きましたが、ワークショップなどをやっていただき、成果が出始めているところです。まず資料の説明をしていただき、皆さんと議論させていただきたいと思っております。

今日の議題は、分野別の20年後の望ましい姿について、職員ワークショップの報告、この2点が中心になります。

それでは、分野別の20年後の望ましい姿について、早速ですが、議論を進めたいと思っております。

最初に、都市計画の分野についてご説明をいただき、その後、意見交換をさせていただければと思っております。よろしくお願いいたします。

○事務局

事前に送付しました「都市計画」分野の「20年後の望ましい姿」の資料と、本日、席上配付の都市計画の「政策検討シート」をご覧くださいませでしょうか。

都市計画分野の20年後の望ましい姿の1、「審議会での主な意見」についてですが、こちらは、12月にご議論いただいた都市計画の政策検討シートの1の項目単位でいただいた意見をまとめさせていただいております。

政策検討シート1の項目(1)都市づくり・まちづくり、(2)ユニバーサルデザイン、(3)景観形成、この項目立てで皆様からいただいた意見をまとめさせていただいたところがございます。こちらの意見には、他の分野で出た意見、他の部会で出た意見も反映しております。

そして、2では、皆さんからいただいた意見や政策検討シートでお示した「社会・国・東京都の動き」や「区の施策の方向性」などをもとに、項目単位で20年後の望ましい姿を導き出しております。

事務局から説明後、本日は2の「20年後の望ましい姿」についてご意見をいただきたいと思いますと考えております。それぞれ(1)は都市づくり・まちづくり、(2)はユニバーサルデザイン、(3)は景観形成の20年後の望ましい姿を文章化しております。

この文章について、将来像として不足しているワードや文章表現があれば、ご指摘を

いただければと存じます。

それでは、早速でございますが、20年後の望ましい姿の（1）をご覧ください。「都市づくり・まちづくり」についての20年後の望ましい姿を表した文章です。

政策検討シートでは、協働型のまちづくりや、駅周辺のまちづくりなどについて、事務局から説明をさせていただきました。

文章の「都市機能の計画的な更新・施設等の集約化や住民参加による地域の特性・地域資源を活かしたまちづくり、先端技術の活用により、それぞれのライフステージやライフスタイルに応じて、だれもが安心して住み続けられるまちとなっています」でございますが、1の（1）①「駅を中心とした高機能化やテクノロジーの活用」、（1）⑤「働く中間層、子育て世帯、高齢者世帯、一人世帯等をターゲットにした機能の検討」や、1の（1）②「住民参加型での地域の実情、特性にあった計画的なまちづくりの推進、公共利用の検討」などから、望ましい姿の文章を導き出しています。

また、（1）⑦「ウォークブルシティ等の都市経営を考え、まちとまちをつないでいく」というご意見については、都市経営の視点でこちらに振分けましたが、（2）の「ユニバーサルデザイン」や「道路・交通」分野の「ネットワーク形成」にも結びつく考え方と捉えています。

続いて、2の（2）の文章をご覧ください。ユニバーサルデザインについてです。政策検討シートでは、駅周辺のエレベーターの設置、駅のホームドアの設置などについて、説明をさせていただきました。

文章の「どこにいても、スムーズに行き交うことができる、あらゆる人にやさしい、快適な環境が形成されています」については、1の（2）①「地形の高低差を意識せず、自然に生活できること」や（2）③「無電柱化や広い歩道の整備等、高齢者の電動カートやベビーカー、車椅子の往来がしやすい」などから、望ましい姿の文章を導き出しております。

次に、2の（3）でございます。こちらは、景観形成についてです。

政策検討シートでは、「景観形成重点地区」や「景観づくりの機運の醸成」などについて、説明をさせていただきました。

文章の「住む人、訪れる人ともに、四季の移ろいや水辺のうるおい、文化・歴史を感じられる美しいまちなみが広がり、オープンスペースは国籍や世代をこえた人々の交流の場として、人と人とのつながりを深め、ゆとりをもたらしています」は、1の（3）③「自然の多様な機能を活かしたインフラ・土地利用、まちの景観との統合性があり、潤いを感じられること」などから、文章を導き出しております。

以上、都市計画分野の20年後の望ましい姿について、説明をさせていただきました。

○部会長

ありがとうございました。

全体で五つの分野がありますので、それぞれ15分から20分程度で進めていきたいと思っております。時間がありましたら、後ほどまとめてご意見いただけたらと思っております。

最終的には、いろいろ議論したところを集約した形で、全体的・包括的に取りまとめるものが基本構想ですので、ご意見いただければと思っております。

それでは、20年後の望ましい姿について、言葉は追加したほうが良いところ、あるいは、それ以外の文章のこともありましたら、ご意見をいただければと思います。

それぞれ、自由にご発言いただければと思いますので、どなたからでも結構です。いかがでしょうか。

私から、先によろしいでしょうか。

2の(2)「どこにいても」というフレーズですが、社会像の在り方として、世の中では共生社会に向けてということがあると思いますが、20年後は実現していることをイメージしたい。例えば、「共生社会が実現し」という表現を入れたほうが、具体化してくるのではないかという感じがします。ご検討いただければと思います。

皆様方、いかがでしょうか。何かございますか。

○副部長

まず、(1)ですが、大きく「地域資源を活かしたまちづくり」と「まちづくり」で終わっている文章と、二つ目の「住み続けられるまちとなっています」で「まちになっています」という表現のところが、うまく整理できないかと思いました。

また、ほかでも「先端技術の活用」が出てきますが、例示があると、区民の方々も想像しやすいと思います。

ほかの分野でもそうですが、「誰に対して」という部分、例えば(2)で「あらゆる人に」という表現。(3)では「国籍や世代をこえた人々」など、違う表現となっています。特に(3)は、「ユニバーサルデザイン」でグローバル社会を意識していると思いますが、ここだけ国籍が出てくると唐突感があるので、「誰に対して」というところをもう少しうまく表現できるとよいと思いました。

○部長

ありがとうございました。事務局、いかがでしょうか。

○事務局

先ほど、部長からご意見いただきました、(2)のユニバーサルデザインについての「どこにいても」というところでございます。将来社会像として「共生社会」が20年後には実現されているだろうというところを見越して、「共生社会の実現」を入れてはどうか、というご意見いただいております。事務局で文章を精査させていただきたいと思います。

また、副部長から、大きく三つ、ご意見をいただいたと思います。

まず、1番目が「まちづくり」と「まちとなっています」の表現について整理が必要ではないかといったご意見。次に、2の(1)の2行目、「先端技術の活用」について具体的な例示があったほうが良いのではないかといったご意見をいただいたところでございます。

20年後の将来像の姿を表すにあたって、具体的に、何であるかを示すことができない中で、こうした表現を使わせていただいているところでございます。

また、先端技術については、都市計画分野だけでなく、様々な分野で先端技術、いわ

ゆるAIやICT、こういった技術は、どこにおいても活用されなければならないと考えており、こちらの表現についても全体のバランスを見ながら、精査をさせていただきたいと思います。

最後に、誰に対してなのか、といったところですが、「あらゆる人」や「国籍や世代を」といった表現、特に2の20年後の望ましい姿の(3)については、「景観形成」に対する20年後の望ましい姿を表している文章でございます。ここに「国籍が」という表現は、唐突感があるというご指摘もいただきましたので、文章の修正等を検討させていただきたいと思います。

○部会長

ありがとうございました。

全体を通して、この都市計画の領域だけではなくて、共通的な用語もあるでしょうし、もう一つは統一感とか、全体のバランスを取っていただきながらということになりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

ほかに何かございましょうか。

○委員

20年後の望ましい姿の(3)で「人と人とのつながり」、できたら「地域と地域の格差のない社会を実現する」というように、もし入れていただければいいのかなと思っています。

○事務局

事務局で精査させていただきたいと思います。

○部会長

こちらは他との領域とも関わってきますね。どちらかにそれを明確化するという形になると思います。もちろん、都市づくりの中でも大変重要になるかと思います。

ほか、いかがでしょうか。

○委員

私からは2点ございまして、まず1点は、20年後の望ましい姿、(3)の1行目「住む人、訪れる人ともに」とありますが、「働く人」という文言を入れていただきたいと思います。

あと、もう一点、これは確認ですが、(1)の「都市機能の計画的な更新・施設等の集約化」とある、「集約化」はどのようなニュアンスで書かれていますか。

○事務局

まず、2の20年後の望ましい姿の(3)、「住む人、訪れる人」というところに、「働く人」を追加しては、といったご意見かと思います。事務局で精査させていただきたいと思います。

また「都市機能の計画的な更新・施設等の集約化」については、政策検討シートの「(1) 都市づくり・まちづくり」の、駅周辺のまちづくりを意識し、使わせていただいているところです。

○委員

集約化という言葉は、いろんな捉え方があり、確かに駅を中心としたまちづくりといったときに有効な言葉かと思いますが、同時に、施設等のことも含まれています。例えば、より合理的な資源配分をするというニュアンスを含め、「最適化」という言葉も差し込んでいただき、「最適化・集約化」という表現にさせていただけると、今後、区の資源配分を考える際に、合理的な判断をするという、意思表示になるかと思います。

○事務局

今の集約化のところですが、東京都で先般、「まちづくりのグランドデザイン」や都市計画関係を改正している中では、あくまでも駅を中心としたまちづくり、駅周辺や身近な拠点に対して、機能を集約化していくというイメージで使われています。

必ずしも施設のみを捉えた集約化ではなく、機能を集積するという意味での集約化なのですが、いただいたご意見も参考にさせていただきたいと思います。イメージとしては、国や東京都の動向に一定程度合わせた、配慮した表現ということでご理解いただければと思います。

○部会長

ありがとうございました。

今、委員のおっしゃるように、集約化は、地域の様々なバランスの問題で、できるところ、できないところがあります。検討いただければと思います。ありがとうございました。

それでは、「道路・交通」分野について、ご説明をお願いしたいと思います。

○事務局

次に、「道路・交通」分野の20年後の望ましい姿の説明をさせていただきたいと思います。この分野の20年後の望ましい姿と、政策検討シートをご覧ください。

こちらも1の皆さんからいただきました意見や、政策検討シートでお示しいたしました国や東京都の動きや、区の施策の方向性などをもとに、項目単位で20年後の望ましい姿を導き出しております。

2の20年後の望ましい姿の(1)をご覧ください。「体系的な道路ネットワークの構築」についてです。政策検討シートでは、「道路や橋梁の整備・保全」などについて、部会で説明させていただきました。

文章の「体系的な道路ネットワークが形成されることで、区内外の拠点間や、高低差のある地域間を結ぶ移動軸が確保され、交通渋滞が緩和した円滑なまちの移動が実現しています」については、1の(1)①「災害発生時の状況を考慮した、渋滞の起こらない道路ネットワークの形成」、(1)②「駅の高架化等による駅周辺の渋滞解消」、

(1) ③「高低差を意識せずに移動できるまちづくり」などから、文章を導き出しております。

次に、(2)「安全で快適な交通空間の形成」についてです。政策検討シートでは、「放置自転車の防止」や「自転車の通行空間」などについて、説明をさせていただきました。

文章の「歩行者、自動車・自転車利用者それぞれにとって、安全で快適な交通空間が形成されるとともに、先端技術の実用化が進むことで、だれもが安心して移動できるまちになっています」については、1の(2)①「自転車及び歩行者が安全に利用できる道路環境の整備」や、(2)⑪「テクノロジーの活用について、検討が必要である」ことなどから、導き出しております。

次に、(3)「利便性の高い移動手段の確保について」です。政策検討シートでは、コミュニティバスやその他の移動手段の導入促進などについて、部会では説明をさせていただきました。

文章の「多様な移動手段が普及するとともに、各拠点の交通結節機能が向上することで、だれもが自分のライフスタイルに合った移動手段を選択して、行きたい場所に気軽に移動できるようになっています」については、1の(3)③「区内全域における公共交通機関の利便性の向上」や(3)⑥「タウンモビリティを形成していくこと」などから、導き出しております。

以上、道路・交通分野の20年後の望ましい姿、説明させていただきました。

○部会長

ありがとうございました。

それでは、皆様方のご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

○委員

望ましい姿の(2)「歩行者、自動車・自転車利用者それぞれにとって」について、これは次の(3)にも係るところですが、「多様な移動手段」として、最近は自転車以外の交通手段というのも出てきています。キックボードのようなものも買われているということもありますので、「自転車利用者」を「自転車等の」という表現をするなど、ご検討をお願いしたいと思います。

○事務局

2(2)「歩行者、自動車・自転車利用者それぞれ」の部分について、例示いただきましたようにキックボードなど、自転車以外の利用者を含めた表現となるよう、「等」が必要ではないかというご指摘をいただいたと思います。文章を精査させていただきたいと思います。

○部会長

ほか、いかがでございましょうか。

それでは、続いて「住宅・公園河川」の領域になります。

事務局からこちらの説明をお願いいたします。

○事務局

次に、住宅・公園河川分野の20年後の望ましい姿について、説明をさせていただきます。

2の20年後の望ましい姿の(1)「安心居住」についてです。政策検討シートでは、「公的住宅の供給」や「居住支援協議会」などについて、説明させていただきました。

まず、一つ目の文章「災害に強く環境性能の高い、より安全で快適な、良質な住まいの整備が進められています」は、1の(1)②「耐震・防災・省エネ・建て替え・修繕等の機能更新ほか三世帯住宅支援の推進」や(1)⑦「脱炭素社会実現の環境性能を備えた住居を誘導する」などから、文章を導き出しております。

次の「また、世帯構成やライフスタイルに応じた居住への支援により、だれもが安心して自分らしく暮らすことができる住まいが確保されています」については、(1)④「多世代がうまく暮らしていけるような公営住宅団地づくり、住民と触れ合えるようなコミュニティ施設の整備」や(1)⑤「働く中間層、子育て世代を重視した良質な住宅街の形成」などから、導き出しております。

次に、2の20年後の望ましい姿の(2)「住環境形成」についてです。政策検討シートでは、「空き家対策の推進」などについて、説明をさせていただきました。

文章の「生活利便性の向上とともに、高齢者や子育て世代など、多世代がともに暮らし、見守り、支え合う住環境が形成され、いきいきと暮らしやすい住生活が実現しています」については、1の(2)④「居住者がおらず、そのままとなっている集合住宅が自治体・民間の協働でリノベーションされ、病院、保育所・高齢者サービス、娯楽、子どもたちへの教育・遊び場を備えた複合施設として運用され、地域の人々が低コストで利用でき、顔見知りの間柄での安心したコミュニティの場となること」などから、導き出しております。

次に、2の20年後の望ましい姿の(3)、「魅力ある空間の創出」についてです。

政策検討シートでは、「公園の整備」や「水辺空間の形成」などについて、説明をさせていただきました。

文章の「北区ならではの個性溢れる公園や水辺空間に、区内外から人々が集い、新たな交流やまちのにぎわいが生まれています」については、1の(3)④「計画的な維持管理」に加え、多くの委員から意見をいただきました(3)②「恵まれた河川を多様な主体と様々な手法で活用し、区の魅力向上につなげていくこと」や(3)⑤「幼児、高齢者、身体障害者を含め、安全・安心に利用できる公園の整備」などから、導き出しております。

以上、「住宅・公園河川」分野の20年後の望ましい姿について、説明をさせていただきました。

○部会長

ありがとうございました。いかがでしょうか。

○委員

20年後の望ましい姿の（2）の最後の文章のほうで「いきいきと暮らしやすい住生活が実現します」のところは、「自然に満ちた」を加えて「いきいきと自然に満ちた、暮らしやすい」としてもらえればと思います。

○部会長

ありがとうございます。ほか、いかがでしょうか。

（2）のところで、議論の中では最初の1行目に、多代的な世代の交流の話が出ていましたが、単身世帯へのアイデアが含まれるような表現にもなるかと思っておりますので、ご検討いただければと思います。

ほか、いかがでしょうか。

○副部会長

（1）の「災害に強く環境性能の高い」という部分の「環境性能」ですが、主な意見のところの（1）⑦ですと、「脱炭素社会実現の環境性能」となっています。望ましい姿の（1）の「環境性能」は、もっと幅広い意味で使われているのか、「脱炭素社会の実現」の意味合いであるのか、「脱炭素社会の実現」の意味合いであれば、環境性能の何が低いのかという部分があれば、イメージが湧くと思えました。

もう一点、（3）「個性溢れる公園や水辺空間に」というところで、最初の都市計画分野の（3）では「水辺のうるおい」という言葉が出てきましたが、その「水辺」と、ここでの「水辺空間」と同じ意味合いで使われるのであれば、どちらかに統一してもいいと思えました。

○部会長

ありがとうございました。いかがでしょうか。

○事務局

まず、2の（1）「災害に強い環境性能の高い」という文章と、1の「審議会での主な意見」の⑦「ゼロカーボンシティの脱炭素社会実現に向けて」、この関連についてお話をいただいたと思います。

こちらは、審議会での皆様の意見を踏まえた上で、また、政策検討シートへ今、区で取り組んでいる施策を含めた上での20年後の望ましい姿を書かせていただいているということで、ゼロカーボンに限ったことではないというところを意識して書かせていただいております。

20年後の望ましい姿の具体性というのが、かなり大きな言葉で全て書かせていただいているということもあるとは思いますが、分かりやすさということも含めて、検討させていただきたいと思っております。

もう一点、ご指摘いただきました2の20年後の望ましい姿の（3）の「水辺空間」と、先ほどご説明させていただきました都市計画分野の（3）の景観形成の（3）の1行目にあります「水辺のうるおい」、この辺の表現について整理したほうがいいのでは

ないかというご意見とっております。

こちらについても事務局で精査させていただきたいと思っております。

○部会長

ありがとうございました。

「災害に強く」の部分でカンマを入れると、後半に出てくる都市全体の環境共生の問題と切り離されてくる気がします。

ほか、いかがでしょうか。

それでは、次へ移りたいと思っております。「防災・防犯」分野になります。

説明をお願いしたいと思っております。

○事務局

「防災・防犯」分野の20年後の望ましい姿、政策検討シートも併せてご覧ください。

2の20年後の望ましい姿の(1)「強靱なまちづくり」についてです。政策検討シートでは、「不燃化、耐震化の促進」や「公共施設の防災機能の強化」などについて、説明をさせていただきました。

文章の「大規模な自然災害が発生した場合でも、区民の生命や大切な財産が守られるとともに、交通やインフラが遮断されることがなく、迅速な都市機能の回復が実現できる、強さとしなやかさをもったまちの基盤が形成されています」については、1の(1)①「延焼遮断帯の整備、狭隘道路の解消、無電柱化、高台・東西移動への避難路確保、緊急輸送道路沿道の耐震化等、安全な住宅市街地の形成」などから、導き出しております。

次に、(2)「地域防災力の向上」についてです。政策検討シートでは、自助・共助の体制づくりや、通信体制の確保などについて、説明をさせていただきました。

文章の「自ら身を守る行動が図れ、互いに助け合うことができ、地域に関わる人と行政が一体となった防災力が高いまちになっています」については、多くの委員からご意見をいただきました1の(2)②「災害に備え防災教育の徹底」や「ハザードマップのさらなる整備」、「防災ボランティアが平常時から訓練されるなど、リーダーシップをとれる住民が育成されること」や(2)④「ふだんから近所、地域の人とお付き合いし、何かのときに助け合える関係を築くこと」などから、導き出しております。

次に、2の(3)をご覧ください。こちらは、「地域の安全・安心の確保」についての20年後の望ましい姿を表した文章です。政策検討シートでは、「防犯教室」や「防犯カメラの設置」などについて、説明をさせていただきました。

文章の「犯罪を未然に防ぐ意識が高まるとともに、自主的な防犯活動や先端技術の活用により、犯罪の起こりにくい安全・安心なまちになっています」については、1の(3)①「町全体が犯罪防止に前向きで、地域、町内会レベルによる見守りや安全への意識・知識を高めること」や(3)④「犯罪を未然に防ぐために、異常な行動を予測できるカメラを設置するなどICTを活用すること」などから、導き出しております。

以上、「防災・防犯」分野の20年後の望ましい姿について、説明をさせていただきました。

○部会長

ありがとうございました。

それでは、ご意見をいただければと思います。いかがでしょうか。

○副部会長

(1) 「交通やインフラが遮断されることがなく」という表現ですが、ライフラインが遮断されることがないまちをつくることは不可能かと思います。遮断されることを前提に、その後の「都市機能の維持及び迅速な回復が実現できる」ということで、整理するものと思います。

○事務局

2の20年後の望ましい姿の(1)の2行目、「インフラが遮断されることがない」と言い切ってしまう部分について、ご指摘をいただいたと思います。

どのような表記が適切であるか、事務局で精査させていただきたいと思います。

○部会長

ありがとうございます。

こちらは、最終的にそれぞれにタイトルがつき、キャプション、説明書きが入りますか。

○事務局

次回の全体会で「20年後の望ましい姿」について確定したものを、皆さんにお示しさせていただきたいと思っております。この後、説明させていただきますが、政策、施策に対して「20年後の望ましい姿」を皆さんにご議論いただき、その望ましい姿に向け、区としてどのように取り組んでいくのかというのは「中間まとめ」で入ってくるころです。

また、今、部会長からもお話があったように、政策の後に、施策、個別の事業などの基本計画について、10月以降、部会に分かれ、またさらに細かい部分について皆さんからご意見をいただく予定です。

○部会長

基本構想の段階でも主要な部分については出てくるわけですね。それを踏まえて基本計画が策定されていくと理解してよろしいでしょうか。

○事務局

基本構想の段階では、大きな政策単位で、どのように区が取り組むのかというところを文章として出させていただく予定です。

また、防災・防犯分野という大きな政策があって、その政策を達成するための施策を、今三つ、こちらに出させていただいていますが、細かなところは基本構想ではなく、基本計画で出させていただき、施策からさらに細かい単位施策と言われるようなもの、区

として重要な事業を紐づけさせていただくというように、進めさせていただきたいと考えています。

○部会長

分野により、どこまで構想の段階で書き、基本計画だとか実施計画に委ねるか、それぞれの幅があると思いますが、議論できるチャンスがあるということで、ありがとうございました。

皆様方からもご意見いかがでしょうか。

○委員

20年後の望ましい姿の(2)の「自ら身を守る行動が凶れ」は命令的に聞こえるので、ここは「凶り」のほうがいいのではないかと思います。

○事務局

今、ご指摘いただきました2の20年後の望ましい姿、(2)の部分ですが、こちらについても適切な表現にさせていただきたいと思います。

○副部会長

(3)の点をつける位置ですが、「意識」と、それによる「行動」が一体かと思いません。先端技術の部分は、行動の前に点があったほうが文章としていいと思いますので、一つの案として「犯罪を未然に防ぐ意識を自主的な防犯活動が高まるとともに、」と点の位置を「活動」と「技術」の間に打てるような文章表現になっていたほうが、よりいいと思いました。

○部会長

ありがとうございます。

この文言の整理については併せてご検討いただきたいと思います。

共通言語にしていると、意図が曖昧になりそうなところが避けられない部分がありますが、一方では、そのことにより、次の展開を緩やかにするということがあるかもしれません。ありがとうございました。

ほか、いかがでしょうか。

それでは、最初に「環境共生・環境保全・資源循環」の取組みについて、ご説明をいただければと思います。よろしく申し上げます。

○事務局

次に、「環境共生・環境保全・資源循環」分野の20年後の望ましい姿について、ご説明させていただきます。

2の(1)「脱炭素社会」についてです。政策検討シートでは、「再生可能エネルギー」や「環境に負担の少ないライフスタイル」などについて、説明をさせていただきました。

文章の「人々の環境配慮への意識が高まり、環境負荷の少ない生活や企業活動が実践され、脱炭素社会の実現に向けて大きく前進しています」については、1の(1)②「SDGsに準拠するということを強く意識する必要がある」ことや(1)③「企業・個人への補助・推奨、売電を実施する仕組みがある」ことなどから、導き出しております。

次に、(2)「資源循環」についてです。政策検討シートでは、「プラスチックごみの資源化」や「食品ロス」などについて、説明をさせていただきました。

文章の「区民・事業者・区の協働により、ごみの減量化や資源の有効利用が進み、循環型社会が形成されています」については、1の(2)③「資源を未来へ。「つくる→つかう→もどす」という循環を推進すること」などから、導き出しています。

次に、(3)「自然環境の保全・創出」についてです。政策検討シートでは、「環境学習」や「地域と密着した緑化推進」などについて、説明させていただきました。

文章の「北区の豊かな自然が保たれ、子どもから大人まで水と緑を身近に感じることができる環境が形成されています」については、1の(3)①「自然を身近に感じられる環境が整備されること」などから、望導き出しております。

次に、(4)「生活環境の保全」についてです。政策検討シートでは、「路上喫煙」や「公害の防止・抑制」などについて、ご説明させていただきました。

文章の「公害の防止及び身近な生活環境の保全に取り組み、だれもが衛生的で快適な生活を送っています」については、1の(4)②「継続的な受動喫煙対策、人が多く集う所での歩きたばこ禁止の徹底」や(4)③「緑が多く、トイレがきれい、空気が澄み渡り、毎日青空が見える北区であること」などから、導き出しています。

以上、この分野の20年後の望ましい姿について、説明させていただきました。

○部会長

ありがとうございます。

それでは意見交換をお願いしたいと思います。いかがでしょうか、ご意見、ご質問、コメント等がありましたらお願いいたします。

(3)の「子どもから大人まで」という表現は、ほかのところでは「だれもが」というような言葉かと思いますが、ここのところを「だれもが」というと少し平たいのかなというように思いますが、少し子どもと大人という切り口ではないほうがいいのかと感じました。ご検討いただければと思います。

ほかはいかがでしょう。

○委員

「公害の防止及び身近な生活環境の保全に取り組み」は、行政だけではなかなか問題解決しないと思うので、「生活環境の保全に地域と取り組み」と「地域」を入れたらいい気がします。

○部会長

ありがとうございます。では、ご検討をお願いしたいと思います。

全体を通して、今までの議論で、言い残したこと、この機会に言っておきたいことがありましたらお願いしたいと思いますが、いかがでしょうか。

どの分野のことでも結構ですので、ありましたらお願いします。

○副部長

都市計画分野の（２）で「どこにいても、スムーズに行き交うことができる」という表現と、道路・交通分野のところの（３）の２行目の「行きたい場所に気軽に移動できるようになっている」という部分で、このスムーズに行き交うという意味合いと、行きたい場所に気軽に移動できるという、この二つが違うニュアンスのことを示しているのであればよろしいかと思いましたが、意図的には同じなのでしょうか。それとも違う意味があるのでしょうか。

○事務局

都市計画分野の（２）のユニバーサルデザインの分野の２０年後の望ましい姿の（２）「スムーズに行き交うことができる」、この表現と、道路・交通分野における「気軽に」といったところ、ここは違いがあるのかというご指摘と思います。

まず、ユニバーサルデザインは移動の手段ということだけではなく、バリアフリーの観点の意味合いを強く出すため、こうした表現をさせていただいているところです。

また、交通分野については、どちらかというところ、高齢の方、障害のある方、区内で高低差があるといった交通条件の中で、いろんな交通の手段を選んで、自分が行きたいときに行きたい場所に行けるという交通手段の確保といったところで気軽に移動できる、意味合いであり、文章表現を変えさせていただいたところです。

○副部長

スムーズにというところにそういった意味合いがあるわけですね。交通分野の（１）に「円滑な」という言葉がありましたので、「円滑な」、「気軽な」、「スムーズ」というところの、ニュアンスの違いが明確であれば、いいと思いますが。

もう一点、最後の環境共生・環境保全・資源循環の（１）「脱炭素社会の実現に向けて大きく前進しています」というところ、（２）「循環型社会が形成されています」ということで「社会が」が主語になっていますが、その上の「大きく前進しています」のところは主語がないように読み取れてしまうため、「脱炭素社会が実現に向けて大きく前進しています」としてもいいかと思えます。

○事務局

主語が不明確といったご指摘をいただいたところでございます。望ましい姿において、主語がある文章と主語がない文章と、若干、混在しているところもありますので、できる限り整理させていただきたいと思えます。

また、脱炭素社会については、あえて「大きく前進しています」という書きぶりにさせていただいています。脱炭素社会については２０５０年を目標としています。今回の基本構想は２０４０年を目標年次とさせていただいていますので、あえて実現という

言葉ではなく、実現に向けて大きく前進しているとさせていただいているところです。

○部会長

ありがとうございました。今、ご指摘いただいたところもなかなか言葉の使い方として意味がいろいろとあり、難しいところかと思えます。

かつての「スムーズ」の使われ方は、今とニュアンスが違うと思えますし、「円滑」という言葉も使う箇所によって違います。ストレスがない、あるいは負担がない、シームレスなど多少は使い分けざるを得ないという感じがいたしますが、ご検討をお願いしたいと思います。

ほかにいかがでしょうか。

こちらの20年後の望ましい姿については、この後5月の全体会に出していく形になりますが、今日、皆様方からいただいた意見をできる限り反映できるよう、再度事務局で検討していただきながら、最終的に事務局と私のほうで考えさせていただき、全体会の資料にさせていただければと思います。ご理解いただければと思います。よろしいでしょうか。

(異議なし)

○事務局

20年後の望ましい姿を確定しないまま、その後、区として何に取り組んでいくかといったところを導き出すことは難しいため、事務局で修正させていただいたものを部会長と相談させていただいて、一旦、部会3「創出」部会で議論いただきました施策の20年後の望ましい姿は、決定ということで進めさせていただきたいと思っています。5月の全体会では、それぞれの部会で確定した各施策の望ましい姿を出させていただこうと思っています。

その20年後の望ましい姿へ区としてどのように取り組んでいくか、どのように達成していくか、という基本的な考え方については、「中間まとめ」という位置づけで5月の全体会を出させていただきます。

中間まとめについては、もちろん皆さんから5月の全体会の際にご意見をいただくほか、全体会後にも一定期間を設け、ご意見をもとに修正をさせていただく期間も、5月から6月にあるといったところで、ご認識をいただければと思います。

○部会長

ありがとうございます。

それでは、続いて、職員ワークショップについて、事務局から説明をお願いします。

○事務局

職員のワークショップについてご説明させていただきたいと思っています。

こちらのカラー刷りの資料の2ページをご覧ください。

前回の部会では、小中高校生や、区民向けのワークショップについてご報告いたしま

した。

今回は、若手、中堅職員によるワークショップについてです。参加者は、お示しのよう
に、35歳以下の職員と、若手職員の政策形成能力の向上と創造的な区政運営を目指
し設置しております政策課題研究会（ロゼ）のメンバーとし、審議会部会と同様、分野
別にて議論を進め、それぞれの部会単位の基本目標（案）とその説明文を作成しました。

3ページをご覧ください。1回目は、「各分野において重視すべき要素の抽出」とい
うことで、将来像の要素を検討しました。4ページをご覧ください。躍動分野では、
「知名度の向上」「ダイバーシティにおける全活躍型社会」など、輝き分野では、「子
ども・子育て層のネットワークづくり」「地域のつながり、生きがいづくりでいきいき
と長生き」など、創出分野では、「持続可能性社会の形成」「安心・安全な都市基盤の
整備」などを作成しました。

3ページにお戻りください。

2回目は、1回目で導き出した将来像の要素をもとに、実現すべき北区の将来イメージ
を検討し、3回目で分野ごとに基本目標（案）を2案と、それぞれの考え方を端的に表
す説明文を作成しました。

5ページをご覧ください。躍動分野における実現すべき北区の将来イメージですが、
「ICTの活用」「未来へつなぐ」「全活躍型社会」「愛着とほこり」などの要素を含む
イメージを文章化し、6ページの基本目標や、説明文を作成したところでございます。

7ページをご覧ください。輝き分野における実現すべき北区の将来イメージですが、
「子どもの個性・能力を伸ばす」「いきいき」「カラフルに輝ける」「世代を超えて」
などの要素を含むイメージを文章化し、8ページの基本目標や、説明文を作成したとこ
ろです。

9ページをご覧ください。創出分野における実現すべき北区の将来イメージですが、
「付加価値」「安全」「交流」「明るくきれいな街並み」などの要素を含むイメージを
文章化し、10ページの基本目標や、説明文を作成したところです。

今回若手職員が検討した内容も含めて、それぞれの部会単位の目標や目標の説明文を
今後検討していきたいと考えております。

以上、職員のワークショップの実施結果について、ご説明させていただきました。

○部会長

皆さん方からご感想あるいはご意見、ご質問等ありましたらお願いをしたいと思いま
すが、なかなか興味ある結果が出てきていると思います。

ちなみに、この34名の方々というのは、区内で居住させている方、あるいは区外
の方とか、それから都外の方々というのは、分かっているのでしょうか。

○事務局

統計を取っておりませんが、区の若手職員、係長級以下ということで34名に集まっ
てもらい、このようなワークショップを開催したところです。

参加者にアンケートを取らせていただいたので、少しだけ報告させていただきますと、
なかなか他部署の職員と接する機会が、特にコロナ禍というところでない中で、意見を

出し合い、自分の視野が広がったというような感想がありました。今回、35歳以下の職員を対象としたということで、今後の20年を考えるにあたって、これから区を背負って立つような職員に、将来像を考えてもらうという機会を設けました。アンケートの中にもありましたが、基本構想をあまり意識して考えたことがなかったという職員にとって、他部署で働く職員間で意見交換する中で、こういう機会に基本構想について、自分たちの考えも反映できるのではないかとといったところも、好意的な意見をいただいたところでございます。

○部会長

ありがとうございました。

複数の職場での職歴、経験もかなり勉強してくれたと思いますし、やはり職員として区をどのように捉えるか、あるいは区民をどのように捉えているのか、というのは、一方では決意表明でもあるかもしれませんが、なかなか面白いと思っております。

皆さんいかがでしょうか、感想等ありましたら。

○委員

この資料の9ページで、持続可能性社会という言葉が職員の中でも使われて、環境のことも触れられていますが、先ほどの20年後の望ましい姿のところ「持続可能性社会」という言葉が最終的には使われなかったと思ったのですが、これはどこかに入れていただいたほうがよろしい言葉ではないかと思っています。「持続可能性社会」という言葉をどこかで使っていただけるようお願いしたいと思います。

○事務局

ご意見踏まえまして、どこでこういった文言を使えるか検討させていただきたいと思っています。

○部会長

大元、最初のところでしょうか。ありがとうございます。

「知名度の向上」もあったような気がしましたが、面白いなど。やはり区の職員の方々が情報をいかに発信できているかどうか。SNSとか様々な、今でいえば、世界に発信をいかにしきれているかという、ここはすごく大きな根底になっているような気がします。

先導してくれる人たちがどれだけいるのかどうか、そういう働きかけも大切かという感じがしました。

ありがとうございます。ほかに皆さん、ご感想、よろしいでしょうか。

それでは、「その他」で、これからのスケジュール等、よろしく願いいたします。

○事務局

その他について、説明いたします。

まず、次回のスケジュールでございますが、本日の開催通知に記載がありました通り、

5月27日（金）18時30分から第3回の審議会全体会を開催いたします。開催通知は、その他の資料とともに、メールと郵送にて、概ね全体会開催日の1週間前に送付いたします。

次回の内容についてですが、12月以降、3つの部会で議論いただきました各施策の意見や、それぞれの部会で確定いたしました各施策の「20年後の望ましい姿」について、事務局から報告いたします。

あわせて、確定した「20年後の望ましい姿」を受けて、その望ましい状態を実現するために、3つの部会単位で目標を掲げ、その目標を達成するための基本的な考え方や、基本構想の背景と目的、意義と役割、理念、将来像などで構成する「中間まとめ案」もお示しする予定です。

席上配付しております基本計画2020の233ページをご覧ください。こちらは、現基本構想です。中間まとめ案のイメージですが、今説明いたしました通り、審議会での議論を踏まえて作成する233ページの背景と目的、234ページの意義と役割、235ページの理念、職員ワークショップ、小中高校生ワークショップ、区民ワークショップ、昨年の審議会全体会で説明いたしました

区民意識意向調査、WEBアンケートなどを参考にして、作成する予定の236ページの将来像、部会単位の基本目標などを中間まとめ(案)としてお示しする予定です。

249ページの「5 快適な都市居住の実現」の下の文章をご覧ください。こちらの政策は、お示しの政策検討シートの「住宅・公園河川」の住宅分野とほぼ同じ施策を並べております。

「住宅・公園河川」の20年後の望ましい姿もご覧いただきたいのですが、文末を確認いただくと、例えば2の20年後の望ましい姿の（1）の一番上の文章「進められています」、（1）の二つ目の文章「住まいが確保されています」、（2）の「いきいきと暮らしやすい住生活が実現しています」ということで、今回皆様にご議論いただいたのは、20年後こういう状態だったらいいというような表現を文末に使っています。

今後、中間まとめ案で出していく文章は、この望ましい姿について、区としてどのように取り組んでいくのかといったところをお示しさせていただこうと思っています。部会で決定した望ましい姿を受けて、その望ましい状態を実現するために、249ページの「5 快適な都市居住の実現」の下の文章の2行目の「良好な住環境の形成を図ります。」、3行目「安心して住み続けられるよう居住を支援します。」のように、区として何をしていくのか、政策ごとに中間まとめ案ではお示しいたします。

基本構想を策定するのは、令和5年の秋を予定していますが、中間まとめ案は、基本構想のベース（案の案）であるとお考えいただければと存じます。

「その他」について、事務局からは以上でございます。

○部会長

ありがとうございました。

いかがでしょうか。全体の流れ、それから現構想のイメージですが、イメージいただけましたでしょうか。

○委員

前に審議会ではほかの委員の方からご質問があったと思いますが、20年間に社会で変化が起きたときに、この基本構想の文章はこのまま使えない、使えなくなるということがあると思います。そのときはもう一回、文章をつくり直すのかどうか、それともそのまま、20年後まで文章を使用するのか。そこをお聞きしたいのですが。

○事務局

中間まとめ案にも書かせていただく予定ですが、構想の期間は2040年頃といったところを出させていただこうと思っております。ただ、時代の状況が、予測しきれない大きな変化があって、策定した基本構想では耐えられない状況が起これば、構想について見直しを適宜行うという表現など、まだ文章は、確定はしていないのですが、何か一文を入れさせていただく予定でございます。

○委員

私たちの述べた意見をうまくまとめてくださって、本当にありがとうございます。

全体の考え方に関することですが、こちらの20年後の望ましい姿、「防災・防犯分野」で終わりから2枚目になりますけれども、(2)で「自ら身を守る行動が図れ、互いに助け合うことができ」という文章があります。

赤ちゃん、体が不自由な方、精神的に不安定であるなど、いろんな状況の方がいらっしゃることを考えたとき、例えば「身を守る行動を図れる教育やサポートが必要」という、こうした方を見捨てないような文言があってもいいのかなと考えたのですが。次の段階で「どこまで」というその概念、認識をすり合わせさせていただけたらと思います。

○事務局

防災・防犯分野の20年後の望ましい姿の(2)の「自ら身を守る行動が図れ」、この部分について、ご質問をいただいたところでございます。

まず、全体として皆さんから意見をいただいたものから、この20年後の望ましい姿を導き出していますが、例えば(2)②、「災害に備え、防災教育の徹底やハザードマップのさらなる整備や、防災ボランティアが平常時から訓練されるなどリーダーシップをとれる住民が育成されることが望ましい」など、こうした具体的なところについては、今後、基本計画の施策の中で、ご説明をさせていただきます。望ましい状態はこういう状態である、これをどういうふうな考え方で実現するかという、実現するための施策については10月に、部会へお集まりいただきまして、施策内容についてご議論をいただきたいと思っております。

○部会長

ほか、よろしいでしょうか。

それでは、終了をさせていただきたいと思っております。全体会、また5月の頃に皆さんとお会いできるということで、よろしく願いいたします。ありがとうございました。